

大学の世界展開力強化事業 取組概要 早稲田大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

アジア地域統合のための東アジア大学院(EAUI)拠点形成構想

【プログラムの目的・養成する人材像】

アジア地域統合のための永続的な大学院教育拠点として東アジア大学院(East Asian University Institute: EAUI)を2020年に開設することであり、EAUIを通じて「地球益」と「地域益」の実現に貢献できる高度な専門性を持った人材を養成する。

【構想の概要】早稲田大学、北京大学(中国)、高麗大学(韓国)、タマサート大学(タイ)、ナンヤン工科大学(シンガポール)の5大学の連携で拠点を形成し、アジア地域統合プログラム(セメスター交換留学、サマー/ウィンター・スクール、集中講義)、および共同研究を展開する。アジア地域統合に関する社会科学をベースとした包括的専門性を持つ人材を育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(第2回サマースクール 於 早稲田大学)

1. プログラム修了認定制度の整備

プログラム修了認定証発行のための制度を完成させ、2014年3月修了生に対して、認定証を発行し、複数大学間で発行するジョイント・サーティフィケート発行にむけての基盤整備を行った。

2. 合同教職員会議の実施

計2回の合同教職員会議を開催し、ジョイント・サーティフィケート制度、サマー/ウィンタースクールの質的改善、プログラムの将来像、共同教育プログラムの開発等について5大学の教職員で協議した。

3. 共同教育プログラム開発の検討

従来型の留学プログラム・対面型授業を補完するツールとして、オンデマンド形式の講義画像を共同開発することについて、5大学間で協議を開始し、具体化に向けての準備に着手した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(第2回サマースクール 於 早稲田大学)



1. サマースクール、キャンパス・アジア集中講義、高麗大学短期派遣プログラムの実施

第2回サマースクールを本学で開催し、5大学から教職員及び大学院生が参加した。全大学の教員が講義を担当し、学生同士が議論を深め、互いの考え方を学ぶ機会となった。また2大学の学生が参加する集中講義を高麗大学(派遣)、ナンヤン工科大学(受入)との間で実施した。バンコク政情不安に伴うタマサート大学での第3回ウィンタースクールの中止を受け、急遽高麗大学への短期派遣プログラムを実施した。

2. セメスター交換留学(派遣・受入)の実施

セメスター交換留学プログラムによる学生の派遣・受入を実施した。全5大学の学生が本大学およびパートナー4大学において4専門分野×4テーマのマトリクスに配置された科目を中心に履修し、講義や討論を通じてアジア地域統合への理解を深めた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

1. 日本人学生の派遣 ※()内は外国人留学生

交換留学ではナンヤン工科大学に4名(1名)、北京大学に2名の本学学生を派遣した。また、キャンパス・アジア集中講義で高麗大学に6名(5名)、高麗大学への短期プログラムで14名(8名)の本学学生を派遣した。フィールドワークを目的に計2名(1名)の本学学生をそれぞれナンヤン工科大学、タマサート大学に派遣した。

2. 外国人留学生の受入れ

交換留学では高麗6名、ナンヤン工科大学8名、北京大学7名、タマサート大学3名を受入れ、サマースクールでは4大学それぞれから5名、計20名の学生を受入れた。また本学で実施した集中講義にナンヤン工科大学から5名を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	19	26	28	45	45
学生の受入	20	40	49	60	60
他大学間移動		15	※	15	15

注) H23~H25は実績、H26以降は計画。

※バンコク政情不安に伴うウィンタースクール中止により実施せず。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

1. 日本人学生の派遣

入試広報媒体・イベントで当研究科入学前の日本人学生に対してプログラムの広報を行い、出願時にプログラム参加希望に関するアンケートを取ることで、入学前から留学に対する動機づけを図った。セメスター交換留学において日本人学生の留学機会を拡大するため、英語以外の現地公用語(中国語、韓国語、タイ語)での科目履修を可能とし、セメスター交換・短期プログラムを当研究科以外の研究科の学生に広

2. 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入れに際しては、キャンパス・アジア事務局が渡航手続きや宿舍手配をサポートし、本プログラム専任の助教2名がセメスター交換で受入れる外国人留学生専用のチュートリアルやフィールド・トリップを実施し、学業面でのきめ細やかなサポートを行った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

国際シンポジウムの開催、参加学生による学外発表、外部媒体を通じての成果の普及、ホームページ上での公開

独立行政法人国際交流基金の助成を受け、日・ASEAN友好協力40周年記念事業と連携し、サマースクールの一環として、ASEAN諸国の研究者を招聘し、国際シンポジウムを行い、本事業の成果を広く学外に発信した。文部科学省主催の「ASEAN+3高等教育質保証フォーラム」でキャンパス・アジア事業についての事例発表を行った当研究科学生が、タイでの国際学会でキャンパス・アジア事業についての発表を行い、海外に向けて本事業の成果を発信した。当研究科教員がサマースクールの成果を国内主要新聞に寄稿し、シンガポール主要中文紙に掲載されたナンヤン工科大学のウィンタースクール参加者の記事をホームページでの公開のため英訳した。プログラムの活動内容は随時ホームページ上で公開している。